

国際問題 プレゼンテーション・ コンテスト

3月6日には、外務省主催の第36回「国際問題プレゼンテーション・コンテスト」を開催し、出場者・審査委員・視聴者をオンラインでつなぎました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大という状況下、「今だからこそ、日本が世界のためにできること」というテーマで「提言」を募った結果、多数の学生から応募がありました。吉田朋之外務報道官は冒頭挨拶し、小論文提出29組（46名）の中から本選出場権を得たファイナリスト5組を激励しました。本選では、世界の平和と安定、繁栄のために、日本はどのような貢献ができるのか、さまざまな視点からの提言が発表されました。村田俊一（関西学院大学教授）、石井澄江（ジョイセフ代表理事）、池上清子（長崎大学教授、プラン・インターナショナル・ジャパン理事長）により審査が行われ、最終結果は以下のとおりとなりました。



ファイナリストの皆さんと
審査委員とのリモート記念撮影

<外務大臣賞>

慶應義塾大学法学部 丸山駿さん、同経済学部 後藤俊平さん

<優秀賞>

神戸大学経営学部 東田理沙さん、同国際人間科学部 小畑芙優子さん

<奨励賞>（発表順）

立教大学経済学部 白方実夢さん

新潟大学経済科学部 今井咲希さん

中央大学法学部 村上歩花さん、同法学部 岡崎絵里加さん

オンラインを活用しての 学生向け事業の開催

2021年2月10日に令和2年度外務省セミナー「学生と語る」、3月6日に第36回「国際問題プレゼンテーション・コンテスト」が行われました。新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、それぞれ初の試みとなるオンライン形式での開催となりました。

「学生と語る」

2月10日の外務省セミナー「学生と語る」には、国内各地、また海外からも多数の参加がありました。冒頭、鈴木隼人外務大臣政務官が、日本外交への理解を深め、日本の歩むべき道を考える良い機会にしたいと述べました。その後、小野日子外務副報道官による基調講演「パブリック・ディプロマシー、国民と共にある外交」、省員による講演「コロナ禍におけるSDGsと国際協力」や体験談と続き、最後に、吉田朋之外務報道官が、外交政策や国際情勢等に対する関心の高さや問題意識が感じられた旨を述べ、今後の活躍に期待を寄せてセミナーを締めくくりました。

参加者からは、「国際関係について新たな視点を得ることができた」「今後活かせる内容だった」「地方からも参加することができた」「質疑応答を通して他の参加者と間接的に交流ができた」などの感想が寄せられました。



鈴木隼人外務大臣政務官による開会挨拶